月の信者

ユユリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
月の信者

【Ｎコード】
Ｎ６２２６Ｚ

【作者名】
ユユリ

【あらすじ】
どんな事がキッカケなんて誰にもわかりません。だから、何が始まりで何が終わりか分からないまま日常は非日常へと変わって行きました。
一人の少女とその周りにいる愉快な友達との出会いと戦い（？）。魔力があるこその裏の考え・・・過去とのつながり・・・『いつからこんな事が決まっていたの？』『ふっ、それは　だいぶ前から・・・あの時からだよ？思い出してごらん』始めは、ただ楽しかったのに。後からきつくなってくる。　ここから抜け出すには・・・・？！

ここは、魔力のある世界。
この世界のある学園の生徒の物語。

登場人物　説明

月の信者　～ＷＩＴＣＨ～
　ここは、魔力が存在する世界。そこでのある学園の生徒の物語。

主な登場人物

・新月（しんづき）　夢々（むむ）
この物語の主人公！
血の繋がりのある魔女の後継者で、風の能力を扱う。

・清水（しみず）　灯里（あかり）
夢々と親友。
魔力持ち人間で、炎の能力を扱う。

・清水（しみず）　勇人（はやと）
灯里の弟。
魔力持ち人間で、電気の能力を扱う。

・山崎（やまざき）　海（かい）
夢々とは幼馴染。
血の繋がりのある者の後継者。風の魔女とは秘密の契約で繋がれている。能力は秘密♪

・伴（ばん）　千尋（ちひろ）
昨日の敵は今日の友みたいな感じで　夢々とは友達。
血の繋がりのあるヴァンパァイヤの一族。

・野山（のやま）　光（ひかる）

学校の授業は寝て過ごす転校生。
血の繋がりのあるらしい光りの後継者。白虎（びゃっこ）の能力を扱う。

・クレア・ネルクン
礼儀正しい外国人。
魔力持ち人間で、毒蛇の能力を扱う。

・タツ
光の義兄。
血の繋がりのある者の後継者だが、詳細は今の所不明・・・

・榎咲（えのさき）　奈子（なこ）
健の双子の妹。
魔力持ち人間で、猫の能力を扱う。

・榎咲（えのさき）　健（けん）
奈子の双子の兄。
魔力持ち人間で、水の能力を扱う。

今のところ、決まっている登場人物。
後から、ゆっくりと出てきます。

ちなみに、夢々達が通っている学園は、魔力学園と言い、中高学校が合体した私立学園。
中1を、第1学年。中2を第2学年。中3を第3学年。高1を第4学年。高2を第5学年。高3を第6学年と呼んでいる。

設定とかは　ほとんど思いつきなので詳しい事は、後から決まっていく予定。
また、投稿不定日ですが　よろしくお願いします。

ては、　次から物語を始めて行きたいと思います。

登場人物　説明（後書き）

オリジナル物語、完結までいけたらいいな＾＾
ほとんどが思いつきで　書いて計画性０ですが・・・
よろしくお願いします。

魔力学園　初日☆

ある日の朝の事・・・
？「チーコークーぅ！！！」

ものすごいスピードで走りぬけていゆく1人の少女あり。

プルルル～・・・

電車の発車ベルが鳴り響く。
？「待っっった！！」
閉まりかけた電車の扉の中に飛び込んだ少女は、一息つくと乱れた髪や制服を整えた。
？「ふ～良かった。この電車乗り過ごしたら完全な遅刻だった。能力使わなくて済んだ・・・」

？「夢・々・ちゃん♪」
夢「ヒッ！？」
？「え、ちょっそこまでビビんなくたっていいじゃんか」
夢「あ、ゴメン。灯里ちゃん。いるとは思ってなかったから」
灯「アハハ。私は遅刻じゃないよ？本屋寄ってたら遅れただけだもん」
夢「それ、遅刻と同じでしょ？」

私、新月夢々。魔力学園第5学年の見習い魔女です。最近はしっかりと血の繋がった者たちが少なくなってきています。だから、私の通う魔力学園は魔力学園と言っても9割ぐらいがただの魔力持ち人間です。私はその数少ない血の繋がった魔女の後継者！
こっちの清水灯里は、魔力持ち人間です。

さ！今日から新学期の始まり♪
今からクラス表を確認に　校内へＧＯ⇒♪

灯「あ、見て見て！今年も夢々ちゃんと一緒だ♪」
灯里が指さすクラス表　５２ＨＲに私たちの名前が並んで書いてあった。
夢「やった！席近いよね？またよろしく」
灯「こちらこそ」
私と灯里は、３年からの仲だ。３年になって始めて友達と別れてしまい１人でいた私に灯里から話しかけてくれて、それから意気投合したのだ。
？「おや？夢々、ココにいたのか」
灯里と手を取り合って喜んでいたら、後ろから話しかけられた。
この声・・・！？
夢「カイニィ・・・」
灯「あ！」
振り返ったらいたのは、やっぱり私の幼馴染の山崎海。
幼馴染と言っても、海のほうが私より１つ上で６年なんだけど、６年とは思わせないほど大人でカッコイイって女子が言ってるのを耳にした事がある。
海「フフフ、その呼び方そろそろやめないかい？」
夢「ご、ごめん。つい・・・その・・・？◇〇％＄」
灯「夢々ちゃん、何言ってるか分かんないよ」
夢「・・・～～～～」
海「っ。ま、よかった。清水さん、また夢々をよろしくお願いしますね」

灯「は、ハイ！お任せ下さい／／／」
海「あ、そうだ、夢々。今夜頼むよ。それを言いに来たんだ。それじゃ清水さん、さようなら」
灯「さようなら！」
灯里は、元気よくカイニィ・・・海君に手を振っている。

海君はイケメンで男女ともにすごく人気がある。
私がウッカリ『カイニィ』って話しかけた時すっごく睨まれたのを今も覚えている。
『あいつ何？』って視線がすごかったもん。

夢「ん～、口で言わなくてもイイと思うんだけどな～」
今私と灯里は５２ＨＲの教室で席について話している。
灯「イイじゃんイイじゃん♪朝から海様見れて幸せだよォ」
夢「カイサマ・・・。でも、メールでいいじゃんか」
灯「口で言わないと通じないこともあるってね♪」
夢「～～～」
灯「私も海さまのこと大好きだしファンだけど、夢々ちゃんのほうがずっと羨ましいよ」
夢「・・・どうして？」
灯「だって、幼馴染だもん！気軽に話しかけられるし、メールも電話も普通にできて・・・」
夢「そんなこと、他の人だってやってるよ。幼馴染は親同士が仲イイだけだし」
灯「もう、分かってないな。そこまでできて、なおかつ海さまの家に入れているの校内で夢々ちゃんだけなんだよ？お泊まりも食事もできて・・・」
夢「ん～～～～？」
灯「そろそろ告白しちゃえば？ちょっとの事でも会いに来てくれるんだし、夢々ちゃん、海様の事すきなんでしょ？」

夢「ス、好きとか！？そんなんじゃないよ！！」
灯「またまた～！顔赤いって！自覚しなさいよ。私も海様のこと好きだけど夢々ちゃんなら譲る！応援する！」
夢「～～～～」
灯「・・・状況悪くなるとうなるの止めない？」
夢「～～～～」
灯「・・・もういいや」
灯里が話すのをやめたのと同時に先生が入ってきた。
あ～・・・新学期の始まりだ・・・。

夢「ハァァ～・・・清々しい～」

今は昼休み。灯里と弁当を食べ終わったころ。私は1人で屋上に来て風に当たるのが好き。
だって私、風の魔女だもん♪

？「やっぱり、ここにいた。」
夢「へぇ？」
振り向くと・・・またカイニィがいた。
夢「どうしたの？カイ・・・君」
海「クスッ。やっぱカイニィでいいよ」
夢「え、でも子供っぽいって」
海「そっちのほうが夢々っぽくて似合ってる」
夢「・・・！子供扱いしないでよ！」
怒ったらカイニィは笑いながら私の頭を撫でた。

もう、いつまでたっても子供扱い・・・
私がいくら恋愛感情を持っても・・・ってのは、違くて！！カイニィにとって私は妹みたいな感じでしかないんだから。
夢「バカみたい・・・」
海「え？」
夢「な、なんでもない。それよりどうしたの？用があるから来たんでしょ？」
海「夢々の顔が見たくなった」
夢「ハぁ？」
海「これじゃ、ダメ？」
夢「ダメって・・・もう、いつまでたっても子供扱い！私はカイニィの事、カイニィって呼ぶけどカイニィの妹でも何でもないんだからね」
海「そんな事ぐらい、わかっているさ」
夢「うるさい！わかってない！・・・で？用件は？」
海「クスクス・・・放課後、買い物に行こうと思ってね」
夢「え・・・私財布持ってない」
海「大丈夫。僕の金で買うから」
カイニィはウインクすると、財布を見せてくれた。

もう、何が何だか分かんないや。

夢「カイニィ、料理ぐらい自分で作れるようにしたら？」
海「いや、作らないよ」
夢「なんで？」
海「だって、夢々が僕のために作ってくれるんだろ？ずっと」
夢「このサボり」
私はカイニィに背中を向けた。
夢「メールで済ませばいいのに」
海「メールだけじゃ伝わらない事もあるんだよ？それに、僕から行

かないと夢々は来てくれないだろ？」
夢「だって、周りの女子がうるさいんだもん」
海「そんなの無視すればいい」
夢「～～～」

できたら悩んでねぇーよ！
私が心の中で突っ込んでうなりだすと、カイニィはまた笑って私の頭を撫でた。
本当に子供扱い。
でもチラッて見たら、目が合っちゃってほほ笑まれちゃって・・・
なんなのよ！カイニィは！！（＾－＾／／）

こんなところ、また女子に見られたらうるさくなるじゃんか。
それが嫌で学校ではあまりカイニィとは離さないようにしているのに・・・
カイニィから来ちゃったら意味ないじゃんか・・・
もう／／／

魔力学園　初日☆（後書き）

第1話。
ノートに書いてある事そのまま写しているんですけど・・・
これはこれでメンドクサイなと、思ってしまっているユユリです。
ええー最初の5ページはかけたかな？

ってか、最近のユユリは魔法だとか能力だとかにはまっています。
なんで？自分が聞きたいぐらい＾＾です！

ては、ここまでありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6226z/

月の信者

2011年12月20日23時55分発行